

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
生理学実習		(作) 必修 (福.人) 選択	1	2	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
稲場 直子	C303	naoko.inaba	水曜日 13:00~15:00 Teams 受付を原則とする		
授業の目的・概要	「生理学」及び「生理学演習」で得た知識をもとにそれらに関連する実験演習を行い、その結果をまとめて考察する。本科目の目的は、実験演習を通じて生理学全般における理解を深め考える能力を身につけるとともに、実験レポートの作成方法および発表方法を習得することである。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 () <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input checked="" type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク				
学習上の助言	「生理学」および「生理学演習」で学習した内容を事前に復習しておくことが望ましい。実習課題についてどのような結果が予想されるか事前に考えてから実験に臨むこと。実験結果が予想と異なった場合は、なぜそのような結果になったのかを各自でしっかり考察すること。予習・復習で疑問が生じた場合は、Teamsなどを介して随時質問し、早めに解決すること。				
教科書	生理学実習 NAVI 第2版 /監修：大橋敦子 /医歯薬出版 /2017				
参考書	生理学 第3版 /著:内田さえ 他 /編:東洋療法学校協会 /医歯薬出版株式会社				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	生理機能の計測原理を知り、安全に留意して運用できる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
②	計測したデータについて考察し、人体機能のメカニズムを説明できる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
③	実習内容をレポートとしてまとめ、定められた期日までに提出できる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
④	実習で得られた結果・考察・設問回答をグループでまとめ、他者に説明・発表できる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
⑤	個体差に触れ、各種の状況や計測条件との関連を考察できる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
⑥	被験者の個人情報を適切に扱うことができる。		HSU(1)~(5)、OT(1)~(3)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション 実習内容の概要説明およびグループ分け等	同時双方向型授業 少人数グループワーク形式による TBL (チーム基盤型学習) を行い、グループごとに成果発表を実施する	必要に応じて予復習をすること	—	
2	講義 (トライアル) 実習の概要および実習手順をまとめ、予想される結果について			—	
3	議論し、発表する			—	
4	実験演習 (トライアル) 実験演習を実施し、得られたデータと予想した結果をもとにレ			—	
5	ポートを作成し、成果発表の準備をする			—	
6	成果発表会 (トライアル) 作成したレポートをもとに、成果を発表する			—	
7				—	
8	講義 (筋電図) 実習の概要および実習手順をまとめ、予想される結果について			—	
9	議論し、発表する			—	
10	実験演習 (筋電図) 実験演習を実施し、得られたデータと予想した結果をもとにレ			—	
11	ポートを作成し、成果発表の準備をする	—			

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)							
12	成果発表会① (筋電図) 作成したレポートをもとに、成果を発表する	同時双方向型授業 少人数グループワーク形式による TBL (チーム基盤型学習) を行い、グループごとに成果発表を実施する	必要に応じて予復習をすること	—						
13				—						
14	成果発表会② (筋電図) 前回のフィードバックをもとに、再度成果を発表する			—						
15				—						
16	講義 (心電図) 実習の概要および実習手順をまとめ、予想される結果について議論し、発表する			—						
17				—						
18	実験演習 (心電図) 実験演習を実施し、得られたデータと予想した結果をもとにレポートを作成し、成果発表の準備をする			—						
19				—						
20	成果発表会① (心電図) 作成したレポートをもとに、成果を発表する			—						
21				—						
22	成果発表会② (心電図) 前回のフィードバックをもとに、再度成果を発表する			—						
23				—						
達成度評価										
総合評価割合 (%)				試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
				0	0	100	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力			0	0	10	0	0	10	
	思考・推論・創造する力			0	0	20	0	0	20	
	協調性・リーダーシップ			0	0	20	0	0	20	
	発表・表現伝達する力			0	0	20	0	0	20	
	コミュニケーション力			0	0	10	0	0	10	
	取組みの姿勢・意欲			0	0	10	0	0	10	
問題を発見・解決する力				0	0	10	0	0	10	
評価のポイント						フィードバックの方法				
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点								
試験	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									
レポート	①									
	②									
	③									
	④									
	⑤									
	⑥									

【2022 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/基礎医学系】

		評価のポイント		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
評価方法	行動目標				
成果発表	①	✓	グループごとに実施した実験内容についてまとめ、互いに成果を発表する。その発表内容について、グループワークに関するルーブリックに基づき学生同士の相互評価を実施する。評価割合はグループ評価 40%、個人評価 40%とし、本科目の学習達成度と合わせて教員が判断する。	学生同士の相互評価の結果を提示する	
	②	✓			
	③	✓			
	④	✓			
	⑤	✓			
	⑥	✓			
ポートフォリオ	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
その他	①				
	②				
	③				
	④				
	⑤				
	⑥				
備 考					
他 担 当 教 員	なし				
教員の実務経験	教員はシステム神経生理学分野で 20 年以上研究実績を持つ。				
実践的授業の内容	<p>専門性を生かして学生に「根拠に基づく医療」の実践に必要な生理学全般の基礎知識および論理的思考力を教授する。</p> <p>本科目では少人数グループワーク形式による TBL（チーム基盤型学習）を実施し、学生が相互に学習成果を発表する。これらの経験を通し、学生に他者に説明できる能力を身に着けさせるとともに、他者と協力して目標を達成する能力を養わせる。</p>				
そ の 他	<p>本科目は Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨する。通信容量制限がある場合は通信量に十分に注意すること。</p> <p>グループメンバー全員で力を合わせ、授業時間内に課題をまとめることができるように心がけること。やむを得ず実習を欠席する際は、必ず事前に教員およびグループメンバーに連絡をすること。</p>				